

会 議 要 録

会 議 名		令和２年度 第２回 小平市青少年問題協議会
日 時		令和２年９月１８日（金）午後１時３０分～午後３時００分
場 所		小平市中央公民館２階 学習室４
出席者 等	委 員	１５名（欠席者 ２名）
	事務局	子ども家庭部長、教育指導担当部長、地域学習支援課長、生活支援課長、子育て支援課子ども・若者支援担当係長
傍 聴 人		２名
会議 内容	１ 開 会 ２ 議 事 （１）小平市子ども・若者計画の令和元年度推進状況について （２）（仮称）若者応援ガイドブックへの掲載内容について ３ 情報交換・意見交換 ４ その他 ５ 閉 会	
配付 資料	会議次第・席次表 小平市子ども・若者計画推進状況報告書—令和元年度実績— これからの道 ひまわり 第４０号（令和元年度）「社会を明るくする運動」作文集 小平市児童養護施設退所者等特別給付金チラシ アンケートのお願い ～小平市児童養護施設退所者等特別給付金を受給されるみなさまへ～	

○ 会議内容等についての意見・質疑応答

１ 議事

（１）小平市子ども・若者計画の令和元年度推進状況について

委 員	<p>職場体験は子どもたちが初めて社会の一員であるということを自覚する場であるとともに、子どもたちが大人の生き方を見て、自分の生き方に気づける場である。そのため、子どもたちの将来にとって非常に有益な事業だと思っている。</p> <p>今年度はコロナ禍の影響により事業を実施できなかったが、来年度以降は実施方法を検討していかなければいけないと思っている。</p>
委 員	<p>子どもを預かる保育園が職場体験を受け入れるとしたら、どういった体験をさせてあげれば良いかを、中学校の先生や子どもたちと話し合った。そして、中学生に子どもたちと遊んでもらったり、働いている先生の姿を見てもらったりするなどした。子どもたちから「良かった」とコメントをいただいているので、今後とも中学校と相互に連携し協力していきたい。</p>

委 員	<p>青少年リーダー養成講座について、今年の３月から開催ができていないが、何ができるかを検討している。動画を撮影して受講生に見てもらうことや、家庭でできることがないかなどについて話し合った。できないとあきらめるのではなく、この時期だからこそ何ができるのかを考えていきたい。</p> <p>また、計画の報告書を見たことで、改めて自分が青少年委員として事業に関わっていることを感じる事ができた。</p>
委 員	<p>悩みを抱えた家庭を支援するために、スクールソーシャルワーカーは訪問や福祉機関につなぐことができるが、出勤日が少ない、不登校の子の訪問などがあると相談したいときにできないという現状がある。そのため、もっと出勤日数を増やしてもらいたい。スクールソーシャルワーカーがいるおかげで、支援機関にスムーズにつなぐことができるようになっているので、ぜひお願いしたい。</p>
事務局	<p>スクールソーシャルワーカーについては、国や東京都も拡充を検討している。学校での勤務が基本となるが、子ども家庭支援センターの職員と連携を深めながら支援していける形を検討していく。</p>
委 員	<p>児童養護施設退所者等特別給付金の対象者への周知はどのように行っているのか。</p>
事務局	<p>本事業は児童養護施設退所者だけでなく里親に委託されていた方等も対象としているが、対象者数については把握できない実態がある。ただし、退所施設でアフターフォローをしてもらっている件数は多いことが東京都の調査等でわかっているため、まずは東京都内の児童養護施設に周知をしている。さらに、東京都社会福祉協議会に協力してもらい、全国の児童養護施設に周知をお願いしている。</p>
委 員	<p>実際児童養護施設を退所した後、だいぶ生活に困っている退所者が多く、その中で一番多いのは学生である。アルバイトがなくなり収入が減少していることから、今回の給付金は本当にありがたい。児童養護施設職員が直接対象者とやりとりをして申請を促しており、対象者からも今回の給付金は助かるという話を聞いている。</p>

(2) (仮称) 若者応援ガイドブックへの掲載内容について

委 員	<p>このガイドブックとインターネットとの関わり合いはどういったものか。</p>
事務局	<p>まずは紙ベースのガイドブックを作成し、その後に若者がインターネット上でも情報を得やすいよう市のホームページにガイドブックの内容を掲載する。現在の市のホームページでは、若者という切り口でまとまって情報が掲載されている構成にはなっていない。そこで、若者のアイコンを作成し、そこから入っていけば必要な情報にたどりつけるような形にしていきたいと考えている。</p>
委 員	<p>アイコンは、若者が見てすぐに若者向けの情報であるとわかるようなものであると良い。</p>

委 員	<p>子ども・若者計画は、中学生は“若者”という位置づけとなっているが、中学生はある意味“子ども”であり、家では親、学校では先生に依存している。しかし本人の社会的自立を考えると、本人がもっと自身の将来のことを考えていくべきであると思う。そのような場面で活用できるガイドブックとなるよう、対象は中学生以上としてもらいたい。</p> <p>例えば今、不登校は問題ではないと言われている。不登校児童への対策として、単に登校させることを求めるのではなく、本人の進路を捉えて社会的自立を目指すことが大切であると言われている。今までは親や担任が進路の選択肢を提示していたが、それは本当の自立には繋がらない。本人が自身を見つめて、これからどうしていきたいかを自発的に選んでいくことがエネルギーとなって良い方向に進むのではないかなと思う。</p>
委 員	<p>冊子内にQRコードを載せて情報を取得できるようにすると、若者が活用しやすいと思う。また、中学生を対象とするのであれば、本人に配るだけでは保護者まで冊子の情報が渡らないこともあるため、保護者にも配布するなどしっかりと情報提供してもらった方が良い。そして、配布の際、学校でただ配るのではなく、先生から生徒や保護者に説明する時間を設ける等の活用をして欲しい。</p>
委 員	<p>中高生は、将来ではなく今が楽しければ良いという行動をとりがちであるので、中学生の頃からこういった情報を目にすることで将来への視野が広がると思う。内容としては、就職や進学にかかる具体的なお金のことや、頑張ることが必要かということなどを数値で示したり、あるいは、職業の紹介や先輩からのメッセージなどがあると親しみやすく、きちんと読んでもらえるのではないかな。</p> <p>また、親向けにも配ってもらえると、家族で話し合える機会が生まれるので良いと思う。</p>
委 員	<p>若者本人の背中を押せる、一つの手がかりになるような情報を載せるのが良いのではないかな。</p> <p>人間は「やってみよう」とそっと背中を後押しされると、行動特性上やる方向に向く傾向があることが行動経済学において言われている。これを活用し、例えば冊子の見出しの表現や全体の構成などを工夫し、それを見た本人の背中を後押しできるような内容になると良い。</p> <p>また、とっかかりとして簡単な自己性格分析や自分を客観視できるようなコラムなどを載せ、結果からこの性格の人にはこんな道があるという将来の道筋を示し、その次に就職や進学の情報を載せていくという構成であると、面白さがあって良いと思う。</p>
委 員	<p>冊子内にQRコードを載せて情報を取得できるようにするのは良いと思う。また、計画の対象年齢については0歳から30歳としており、30歳までが若者という定義となっている。一方で、東京都若者総合相談センターは18歳以上からおおむね30歳までを対象年齢としている。事業によっては30歳を少し超えても良いような幅を持たせてあげると良いのではないかな。</p>
委 員	<p>多くの社会人の仕事を紹介する内容を盛り込むことで、若者が将来を考えるきっかけになると思う。自分の中学高校時代を思い返すと、将来のことを考えられていなかった。なぜかという、あまりに情報がなく、将来が不透明過ぎたからである。そのため、中学高校時代に将来の選択肢をたくさん提示してあげると、高校卒業後にただ何となく大学に行くだけの選択肢ではなく、そこで自分が進みたい道を考える機会が生まれ、選択肢が広がると思う。</p>

委 員	<p>自分は大学3年生であり、就職活動が始まるのだが、将来この職業に就きたいとすぐに思いつくものがない。大学からは自己分析をすると言われるが、自分が何に興味があるのかというのは意外とわからないものである。そのため、冊子に自己分析できるようなページがあると良い。また、親が子どものやりたいことをサポートする際に活用できるものであると良い。</p>
委 員	<p>QRコードを載せるのはとても良い。今は子どもの教科書でも載っている。アドレスではなくてQRコードを載せると良いのではないかな。</p> <p>それから、特に困難を抱えた子どもが対象となると、不登校や金銭的に困っている家庭ということになるのか。</p>
事務局	<p>家庭環境に恵まれている若者は、困ったことがあれば家族に相談できるが、家庭環境に恵まれず、助言してくれる親がいなくなるときに、親の代わりに情報を提供できる助けとなれば良いと考えている。そのため、サポートが必要な子どもが主な対象となる。</p> <p>ただしそれだけではなく、例えば活動的な大学生が市の活動に協力したいと思ったときに活用できるような情報も載っているのも良いと思っている。</p>
委 員	<p>中学生が自分の進路を決める際に知っておいた方が良い情報を載せて、学校から進路指導の時期に配っておき、自分自身でもいろいろと調べられるような内容の冊子とすると良いのではないかな。</p> <p>また、家庭の事情により高校を突然やめなければいけなくなった場合にも役立つような冊子であってほしい。</p>
委 員	<p>警察署では、相談に来た若者に対して、相談員一人が最初から最後まで全部聞くことはしない。若者が来たらまずは近い年代の担当が話を聞き、内容的に年配者の支援が必要であれば担当を変更するような対応をしている。もし市でも若者の相談を受けることがあるのであれば、相談内容に合った相談員により対応できると良いと思う。</p>
委 員	<p>簡単でわかりやすく、インパクトがあるような冊子であれば、悩んでいる子どもの目にとまるのではないかな。そして、親が冊子の内容を知っていれば子どもも安心すると思うし、悩んでいる他の親にも教えてあげることできるため、大人たちも読むと良いと感じた。大人が行動して子どもへ伝えてあげることが大切なことだと思う。</p>
委 員	<p>外国籍の子どもで高校に行けていない人がある。ガイドブックは日本語で作成されるものが多いが、外国籍の方への配慮も検討をお願いしたい。</p>
会 長	<p>委員のみなさんから貴重なご意見が出たが、困ったら掲載されている連絡先に相談をという内容にとどまらず、例えば、困るのは当然のことであり、そうになったらこうしてみたら、といった指針となるようなことも書いてみてはどうか、という趣旨と思うので、参考にさせていただきたい。</p>